

令和元年9月9日
市民環境常任委員会資料
産業地域振興部文化自治振興課

令和2年度以降のふれあいセンターについて

本年3月の市民環境常任委員会で「ふれあいセンターの今後のあり方について（菟道・伊勢田・平盛）」について報告したところですが、令和2年度以降のふれあいセンターについて、以下の考え方で進める予定としておりますので報告いたします。

1. 各ふれあいセンターの今後の考え方について

<菟道ふれあいセンター>

令和2年4月1日以降は、耐震性能を有していない多目的活動室を閉鎖し、耐震性能を有している老人憩いの部屋、こども図書コーナー及び会議室にて、当面は開館を継続します。また、近隣の他の公共施設等の利用を促進します。

「ふれあいセンターの今後のあり方について（菟道・伊勢田・平盛）」での要旨
廃止するが、当面は開館を継続することとし、平成32年度（令和2年度）からは、耐震性能を有していない部分は閉鎖し、他の公共施設の現状や今後のあり方をふまえて、機能移転について検討する。

<伊勢田ふれあいセンター>

令和2年4月1日に廃止しますが、近隣の他の公共施設等の利用を促進するなど、貸館機能については近隣の公共施設等へ機能移転します。
また、令和2年度に解体工事を実施する予定です。

「ふれあいセンターの今後のあり方について（菟道・伊勢田・平盛）」での要旨
平成31年度（令和元年度）末で廃止し、貸館機能については、近隣の公共施設等へ機能移転する。

<平盛ふれあいセンター>

大久保青少年センターの移転に合わせて廃止とし、大久保青少年センターへ機能移転します。また、近隣の他の公共施設等の利用を促進します。また、令和2年度に解体工事を実施する予定とします。

「ふれあいセンターの今後のあり方について（菟道・伊勢田・平盛）」での要旨

廃止し、貸館機能については廃園後の大久保幼稚園への大久保青少年センターの移転と合わせて機能移転する。廃止時期については、大久保青少年センターの移転時期に合わせる。

2. 今後の予定

宇治市ふれあいセンター条例について、令和元年9月定例会に議案を提出する予定としています。

参考資料

ふれあいセンターの今後のあり方について

(菟道・伊勢田・平盛)

平成31年3月

宇 治 市

1. 経過

本市では、幼稚園児の減少に伴い、市立幼稚園8園中4園を昭和62年（1987年）3月末に廃園し、その廃園施設を活用して、昭和62年（1987年）12月に、「子どもからお年寄りまで、趣味、娯楽、各種会合、スポーツなど、個人やサークルが気軽に利用できるコミュニティ施設」として、ふれあいセンターを開設しました。

無料施設ということもあり、気軽に利用できることから、サークルを中心に活発に自主的な活動が展開され、うるおいのある地域社会づくりに寄与してきたところですが、施設の老朽化が著しいことや、コミュニティセンターや地域福祉センター等の施設整備が進んだこともあり、平成13年（2001年）2月に策定した「宇治市公共施設整備計画」において、今後は他の施設への転用を図っていくことを基本とすることとし、平成15年（2003年）に槇島ふれあいセンターを槇島地域福祉センターに転用しました。

また、平成25年度（2013年度）の耐震調査において、3館とも耐震性に課題のあることが判明したことを受け、現在の貸館としての利用状況を踏まえるとともに、今後のふれあいセンターのあり方を検討し、その方針を早急に示すことが必要であると考えているところです。

2. 公共施設等総合管理計画の内容

本市においては、市民サービスの向上を図るため、これまで様々な公共施設等を整備してきましたが、施設の多くは建設から相当の年数が経過し、大規模な改修や建替えが必要となることを見込まれています。

一方で、今後も、人口減少や少子高齢化の進展が予測される中であって、社会経済情勢の変化や厳しい財政状況などを踏まえ、限られた資源を有効に活用するとともに、「選択と集中」による効果的・効率的な行政運営が求められており、多様化する住民ニーズに的確に応えていかなければなりません。

こうした状況を踏まえ、公共施設等の適正配置や計画的保全により持続可能な市民サービスを維持していくため、公共施設等の現状と課題を整理し、更新

・統廃合・長寿命化などの基本的な方針を定めた「宇治市公共施設等総合管理計画」（以下、「総合管理計画」という。）を平成29年（2017年）に策定しました。

総合管理計画においては、公共施設総量の適正化に向け、公共施設の延べ床面積を平成58年度（2046年度）までに20%削減することを目標としています。公共施設の長寿命化に取り組むとともに、より効果的・効率的な管理運営に努め、維持・更新費用等の削減をあわせて取り組むことで、30年後の人口減少率である20%を削減目標とするものです。

また、施設類型ごとの基本的な方針において、ふれあいセンターについては、耐震性に課題があることから、利用実態を鑑みる中で、他の施設との統廃合を検討することとしています。

3. 利用状況

延べ利用人数

(人)

年度	菟道	伊勢田	平盛	合計
平成29年度	28,005 (89.8)	24,485 (78.5)	13,808 (44.3)	66,298
平成28年度	29,380 (94.2)	24,541 (78.7)	15,235 (48.8)	69,156
平成27年度	22,058 (70.0)	22,713 (72.1)	13,568 (43.1)	58,339
平成26年度	22,188 (70.7)	23,181 (73.8)	13,833 (44.1)	59,202
平成25年度	19,682 (62.5)	15,229 (65.1)	14,819 (47.0)	49,730

※（ ）内は、一日平均延べ利用人数（延べ利用人数／開館日）

4. 耐震診断結果

施設名	主要な部屋	棟概要				診断結果				
		構造分類	階数	調査面積 (㎡)	建築年	階	X方向 (桁行)		Y方向 (張間)	
							指標値	判定	指標値	判定
菟道	相談室	RC	2	323	S37	2	0.36	NG	1.77	OK
						1	0.25	NG	0.78	OK
	図書室 老人憩いの部屋	RC	1	222	S37	1	0.85	OK	0.89	OK
						1	0.06	NG	0.14	NG
伊勢田	事務室	S	1	522	S47	上階	1.36	OK	2.40	OK
						下階	0.13	NG	0.40	NG
	多目的室					上階	0.35	NG	0.31	NG
						下階	0.13	NG	0.10	NG
	図書室 老人憩いの部屋					上階	1.07	OK	1.87	OK
						下階	0.13	NG	0.25	NG
	ポーチ					上階	12.04	OK	12.04	OK
						下階	0.45	NG	0.45	NG
平盛	事務室 学習室	S	2	364	S55	2	0.39	NG	0.27	NG
						1	0.29	NG	0.21	NG
	多目的室	S	1	91	S55	1	0.30	NG	0.36	NG

5. 耐震補強概算費用

菟道ふれあいセンター	1. 2億円
伊勢田ふれあいセンター	1. 0億円
平盛ふれあいセンター	1. 1億円
合計	3. 3億円

6. 実施方針

【基本的な考え方】

ふれあいセンターは、建設から30年以上の年数が経過したことで3館ともに施設の老朽化が進み、かつ耐震性に課題のあるところですが、今後も人口減少や少子高齢化の進展が予測される中、将来のまちづくりを見据え、子どもや孫といった次の世代にできるだけ負担を残さないよう策定した総合管理計画において、他の施設との統廃合を検討するとしていることを踏まえ、ふれあいセンターとしては廃止することとしますが、貸館機能については、近隣の公共施設等へ機能移転することといたします。

【菟道ふれあいセンター】

昭和37年（1962年）に菟道幼稚園として建設しましたが、前述の経過のとおり廃園に伴い、昭和63年（1988年）1月に菟道ふれあいセンターと青少年指導センターとの複合施設として開設しました。

建設から56年が経過したことで施設の老朽化が進み、かつ耐震性能を有しておりませんが、耐震補強は実施せず、総合管理計画に基づき単独での建替えは行わないこととし、ふれあいセンターとしては廃止し、貸館機能については、近隣の公共施設等へ機能移転することとします。

しかしながら、近隣の市民会館（宇治公民館）が閉館となっていることもあり、当面はふれあいセンターとして開館を継続することとし、平成32年度（2020年度）からは、耐震性能を有していない部分は閉鎖し、他の公共施設の現状や今後のあり方をふまえ、機能移転について検討します。

【伊勢田ふれあいセンター】

昭和47年（1972年）に伊勢田幼稚園として建設しましたが、前述の経過のとおり廃園に伴い、昭和62年（1987年）12月に伊勢田ふれあいセンターとして開設しました。

建設から47年が経過したことで施設の老朽化が進み、かつ耐震性能を有しておりませんが、耐震補強は実施せず、ふれあいセンターとしては平成3

1年度（2019年度）末で廃止します。なお、貸館機能については、総合管理計画に基づき、近隣の公共施設等へ機能移転することとします。

【平盛ふれあいセンター】

昭和55年（1980年）に平盛幼稚園として建設しましたが、前述の経過のとおり廃園に伴い、昭和62年（1987年）12月に平盛ふれあいセンターと大久保青少年センターとの複合施設として開設しました。

建設から39年が経過したことで施設の老朽化が進み、かつ耐震性能を有していませんが、耐震補強は実施せず、ふれあいセンターとしては廃止し、貸館機能については、廃園後の大久保幼稚園への大久保青少年センターの移転と合わせて機能移転することとします。

なお、ふれあいセンターの廃止時期については、大久保青少年センターの移転と合わせることにします。